

編輯後記

等があり、いづれも好評なのは悦ばしい。

〔赫々たる戦捷の新春を茲に迎へ、國運の湧きを一向に念じ、吾等が文藝の道も共にその榮光に浴して、愈々隆昌ならんことを心から祈るものである。〕

〔戦争実験の目的は高度國防國家の確立、人類の福祉、世界平和の招致にある。それを促進し達成するもの即ち文化である。その文化を實現し完遂する道の一つとして藝能は存在する。文藝にいそしむ人々の使命、今後愈々重大なるを痛感する。〕

〔國民劇の樹立が提倡されて以來、移動劇團、戦時慰問團の活躍は目覺ましく、農漁村、工場等の素人劇の創始、紙芝居の改新研究も漸く華々しく、總べてが昨年を出發點として發展の途上に在る。頗もしきかな。〕

〔情報局主催國演劇コンクールに選出されしもの十四劇團、日本文化中央聯盟の大衆演劇コンクールに参加申込せしもの十三劇團があり、既に作品發表済みのものに、歌舞伎の「妹脊山」、新生新派「山參道」、ムーランルージュ「伽藍」、海澤一座「算盤」

○將來を期待されてゐる前進座が昨一年を映畫製作に没頭したのは惜しいが、他方、文藝座が眞の國民劇として研究所から街頭へ進出した。その發表作品の中でも「バスツール」、「砂の上」など歓迎された。

○東都劇壇の流動、焦慮、健闘、躍進、甚だ進取的なのに引替へ、關西劇壇は餘りにも無爲に、徒に沈滯をつゞけてゐるのは商がゆい。たゞ文樂のみが獨自のものを持ち、も亦甚だ振はない。

○林長三郎は由縁ある故名優何某の名を近く襲ふと聞く。それも藝道精進の一助とならうが、思へば今はかゝる遺風に拘泥してゐる時でない。興行者がかかる便乗的企畫も未練を斷ち得ぬやうでは、國民劇の促進も樹立も覺束ない。外面的な興行政策以上に内部的な反省と研究を要望する。

淨瑠璃雑誌 第四百六號

(昭和十七年一月號)
(毎月一回三十日發行)

本部 一部 金五十錢
定期 半ヶ月 金三圓
價十二冊 金五圓

○○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○○外國送りは一冊に付郵稅十錢を要す
○○据替は浪花名物淨瑠璃雑誌社。

○○座穴阪二三九二八番

廣告料

特等	一頁	金三十圓
二等	一頁	金二十圓
一等	一頁	金十二圓

○○特等は一頁以下の需に應ぜず六回以上との特約には割引す

○○製版を要する時は其實費を申受く

○○廣告料は總て前金の事

一行九ポイント活字

發行人兼 極口虎之助

大阪市西成区木津通二ノ三二

印刷人坂口秀吉

大阪市西成区木津通四ノ三〇

印刷所高尾印刷所

大阪市西成区木津通二ノ三二

編輯部 大森 ほのほ
林秀雄

發行所 淨瑠璃雑誌社